

No. 1  
(30ページまで)

令和7年度文部科学省事業  
「発達障害のある児童生徒等に対する支援事業」

# 令和7年度 通級による指導 自立活動事例集



香川県教育委員会  
特別支援教育課

## 令和7年度版の作成にあたって

「通級による指導」では、通常の学級に在籍する障害のある児童生徒に対し、自立を目指し、障害による学習面や生活面の困難さを改善・克服するため、一人ひとりの状況に応じた自立活動の指導を行っています。

通級による指導担当教員協議会では、自立活動の指導について、各学校での実践報告を持ち寄って、事例検討や、指導方法、教材について協議を行っています。その際の実践報告をまとめ、通級による指導のヒントにさせていただくために、毎年、冊子にして公表、配布しています。実践報告の中には、明日からの指導のヒントにつながるアイデア豊富な実践が含まれています。

自立活動の指導は個別に計画されるものですので、本冊子の事例そのままを授業で行うことはできないかもしれませんが、教材の引き出しとしてご活用いただければ幸いです。

※なお、文部科学省においても、通級による指導を担当する教員のために「初めて通級による指導を担当する教師のためのガイド」を刊行しています。

「初めて通級による指導を担当する教師のためのガイド」令和2年3月  
文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課



## 実践事例目次



### 【小学校：学習面・生活面・心理的な安定に関する課題への指導】

自己を見つめ直すためのSST指導	1
意欲をもち、見る聞く力をつけるための指導	2
漢字の形を捉えて書けるようになるための指導	3
「聞く」ことのトレーニング	4
衝動的に行動してしまう児童への指導	5
読み書きに困難を示す児童への指導	6
相手の状況や気持ちを考えて行動するための指導	7
構造化と視覚支援による集中力・自己コントロールの支援	8
漢字学習に対しての不安感を減らし、意欲を喚起するための指導	9
片仮名の読み書きに慣れるための指導	10
聞く力を伸ばし、コミュニケーション能力を高める指導	11
自分に合った読み方を見つけ自己肯定感を高める指導	12
問題作りを通してかけ算の理解を深めるための指導	13
ポジティブな考え方を身に付けるための指導	14
自分の怒りのポイントを知り、感情をコントロールするための指導	15
自己の理解と行動の調整のための指導	16
書くことにつまづきがある児童への指導	17
コミュニケーションに課題のあるASDとADHD児童への指導	18
書字に課題のある児童のための指導	19
自分に合った学び方を一緒に見つけ、意欲的に取り組ませる指導	20
友達と適切に関わりながら、心穏やかに学校生活を送るための指導	21
自分のしたいことを優先させ、行動の切り替えが難しい児童への指導	22
わり算の筆算の手順を示し、ゲーム的要素を取り入れて習熟を図る指導	23
話を聞き、正しく理解し、言葉で表現するための指導	24
運動感覚の発達を促し、人とのコミュニケーションを円滑に行うための指導	25
友達関係を築くために必要なスキルを身に付けるための指導	26
自分の特性を知り、自分を落ち着かせるための指導	27
最後まで話を聞き、大事なところを聞き取れるようにするための指導	28
衝動性があり集中が続きにくい児童のための指導	29
感情のコントロールができるようになるための指導	30
読む・書く・計算全般において遅れを取り戻し、学習に意欲的に取り組むための指導	31
他者とのかかわりが苦手な児童への指導	32
自分の怒りを理解し、コントロールするための指導	33

自己理解を深め、自ら適切な行動を選択し調整する力を高めるための指導	34
整理・整とんに課題のある児童への指導	35
自己の課題を認識し、集中力を身につけるための指導	36
感情の理解とコントロールのための指導	37
書くことに困難さがある児童のための指導	38
苦手なことになかなか取り組めない児童への指導	39
自分の気持ちを上手く表現できるようになるための指導	40
物事を柔軟にとらえ、言動に自信がもてるようになるための指導	41
いろいろな人と関わり、自分の気持ちを上手く表現できるようになるための指導	42

### 【中学校、高等学校:学習面・生活面・心理的な安定に関する課題への指導】

自分にあった方法で意思表示ができるようになるための指導	43
前向きに漢字学習に取り組めるための指導	44
認知機能を高めるトレーニング等の学習活動	45
英単語を読むための指導	46
家庭学習を習慣化させるための指導	47
自分の価値観を正しく理解するための指導	48
基礎学力の向上と提出物の自己管理のための指導	49
自分を理解し、「良さや強み」を伸ばすための指導	50
集中力を高め、学習習慣を定着させるための指導	51
自分の性格や長所に目を向け、身だしなみを整えるための指導	52
落ち着いて学習に取り組むための指導	53
入試面接の自己PRと作文指導	54
高校卒業後のお金の管理に関する指導	55
自信をもって社会に出るための指導	56

### 【小学校、特別支援学校:言語障害・難聴・弱視に関する課題への指導】

知りたいことを聞いたり伝えたりするための指導	57
読み書きを改善するための指導	58
補聴器管理を進めるための指導、及び語彙を増やすための指導	59
聴く力を高めるための指導	60
セルフアドボカシーの力を高めるための指導	61
視覚補助具を活用するための指導	62

---

小学校：学習面・生活面・  
心理的な安定に関する課題への指導

---

小学校	自己を見つめ直すための SST 指導
<p>★対象児童 (1) 年 対象障害種 (ASD)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ものごとに対するこだわりが強い。</li> <li>• 思い込みや判断力の不足によって、気づけば困った状態になっていることがよくある。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ソーシャルスキルトレーニング (SST) の学習を通して、あまり考えずにとってしまう行動の中に、望ましいこととストップをかけた方がよいことの両面があることに気づき、自分の行動を見直そうとする意識をもつことができる。</li> </ul> <p>【自立活動3人間関係の形成一(2)、(3)】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SST シート、SST 絵カード、ホワイトボード</li> <li>• 「にこちゃん」と「ちょっとまったくん」のキャラクターシール</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p><b>[学習内容と指導方法]</b></p> <p>SST の学習を組み合わせ、自己の客観視と他者の立場や感情を理解する力を高める。</p> <p>①SST シートによる学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の思いよりも相手の立場を尊重した行動をとると、どのようなよいことがあるかを学ぶ。</li> </ul> <p>例) 身体計測の時、おしゃべりをしたいと思っても、自分が少しがまんすることで、みんなが静かに計測できてよかった。</p> <p>②SST 絵カードによる学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分本位な行動をとった場合、周りの人たちがどのような感情を抱き、自分にとってどのようなマイナスがあるのかを客観的に学ぶ。</li> </ul> <p>例) 給食のシチュエーションに入っているマッシュルームが嫌いだからといって、床に落としたのではクラスみんなに迷惑をかけることにつながってしまう。</p> <p>③自分の実生活における行動の分析学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分のこだわりによって引き起こされる行動のプラス面とマイナス面をボードに書き出して整理する。</li> <li>• 「にこちゃん」と「ちょっとまったくん」のキャラクターシールを用いて、どこまではプラス内容で、どこから先は人に迷惑をかけてしまうかをはっきりととらえやすくする。</li> <li>• 結果だけを見て注意されてしまった経験があるかもしれないが、本人にとっては積極性や真面目さからスタートした行動である場合が多いので、にこちゃんゾーンの行動内容については大いに評価し、自己肯定感を高める。</li> <li>• ちょっとまったくんが出てきた瞬間の行動に着目させ、行動改善に向けての意欲を高める。</li> </ul> <p><b>[児童の様子、成果]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★1年生ながら、自己表現力が高い児童だったため、こだわり事案(例:全授業の全発問に対して挙手をする)に至るいきさつや自分の気持ちを具体的に述べることができた。</li> <li>★自分は最初から間違っていたわけではなく、やる気や真面目さはあったのだけれども、自分ばかり挙手し続けると、他の友だちや先生が困るシーンがあることに気づくことができた。</li> <li>★自分を応援してくれている親や先生や友だちが気持ちよく過ごせるように、自分が少しがまんすればよい場面があることに気づくことができた。</li> </ul>	

小学校	意欲をもち、見る聞く力をつけるための指導
<p>★対象児童 (1)年 対象障害種 (LD、ADHD)</p> <p>★対象児童の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを伝えようとするが、言葉でうまく表現できない。会話においては、話の切れ目で話すのではなく、出し抜けに話し始めることもある。簡単な指示の理解はできているが、初めて経験することや、複数の指示になると難しく、個別に伝えたり、活動の支援をしたりする必要がある。話を理解しにくいことが原因でトラブルになることもある。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見る、聴くなどの感覚の活用ができる。【自立活動4 環境の把握- (1)】</li> <li>・情緒の安定、気持ちのコントロール、周囲の人との良好な関係づくり【自立活動3 人間関係の形成- (3)、2 心理的な安定- (3)】</li> </ul> <p>★有効な教材</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 子どもの「ビジョントレーニング」(PHP研究所)</li> <li>② 「短所を長所に変えたいやき」(株式会社 アイアップ)</li> </ol>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容や指導方法]</p> <p>① よく見て聞いて、相手を承認し合うゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 真似っこゲームとジャンケンゲームをする。教師の動きを見て、即座に真似をすることで、注視と体のコントロールができるようにした。遊びの中で見たり聞いたりすることで、承認し合いながら、見ること、聞くことの方法を知り、気持ちよさを感じる事ができた。</li> </ul> <p>② 好きなキャラクターのよさを知り、自分もそうなりたいという意欲をもてるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本児が「名探偵コナン」が好きなことを活かし、コナンくんのかっこよさは、物事をよく見て、聞いているからこそだという認識を共にもつようにする。その上で、見ることや、聞くことを、がんばりたいという気持ちを素直にもてるようにした。</li> </ul> <p>③ 生活の場面で具体的に、イライラしてストレスを感じた時のことを思い出し、「相手の視点に立つことや相手の気持ちになる」ことを学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 例えば、本児の場合、教室でのトラブルを振り返る。相手の席から見た見え方を写真で撮り、自分から見た見え方と比べることで、相手の行動を理解するきっかけとした。そうすることで、相手の気持ちの理解にもつながった。「もしかして」「きっと」という言葉を使って考えるとよいことや、図で表すと落ち着いて捉えられることを学んだ。</li> </ul> <p>[児童の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 好きなことから入ることで、笑顔で、意欲的に学習を始められた。</li> <li>★ 教師との信頼関係が増し、落ち着いて指示が聞けたり、板書が見られたりするようになってきた。</li> <li>★ 表情が明るくなり、友だちとなかよく学級で過ごせるようになってきている。</li> </ul>	

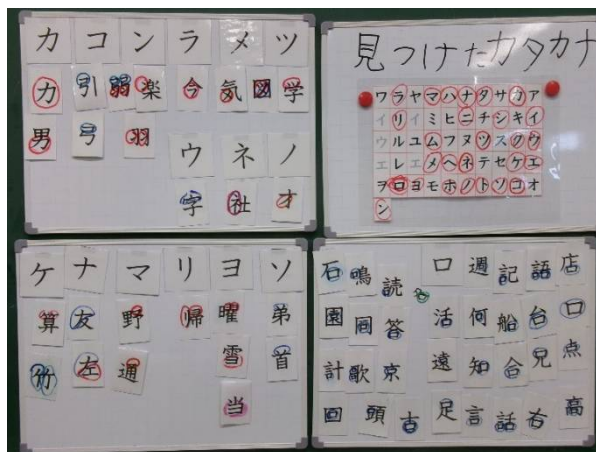
小学校	漢字の形を捉えて書けるようになるための指導
-----	-----------------------

- ★対象児童 (2)年 対象障害種 (LD)
- ★対象児童の特徴
  - ・片仮名を正しく書くことができる。画数の多い漢字の細部を捉えるのが苦手である。
  - ・漢字を読むことができるが、書くときに思い出せないため書字に苦手意識がある。
- ★目標
  - ・漢字をパーツの組み合わせで捉えて、正しく書けるようにする。
- 【自立活動2心理的な安定—(3)】
- ★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等
  - ・「読み書きが苦手な子ども唱えて覚える漢字指導法」(道村静江、明治図書)
  - ・漢字イラストカード(自作)、漢字パーツパズル(自作)

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

**[学習内容と指導方法]**

- ① 漢字の中にある片仮名を見つけるゲームをする。  
「どの(いくつの)片仮名が使われているか。」  
「どの片仮名が多いか。」ゲーム感覚で行う。
- ② 既習の漢字を個別にカードで示しておく。一字一字に着目して、見つけた片仮名に囲み印を付けていく。
- ③ 片仮名ごとに仲間分けをしたり、50音表に○印を付れたりして整理する。予想を確かめる。




- ④ 片仮名を一つのパーツとして捉え、パーツの組み合わせで漢字ができていることを知る。
- ⑤ 複雑な形の漢字は「パーツパズル」を操作し、おおまかな形を覚えられるようにする。(例「曜」…「日・ヨ・ヨ・佳」)
- ⑥ 複雑なパーツ(「ふるとり」)は、フレーズ化して唱える。  
「イ・ノ・よこ・たて・1・2・3」
- ⑦ 例「曜」を使った言葉を集め、ホワイトボードなどに書く。
- ⑧ 集めた言葉を使った文(生活文)を作り、発表する。



**[児童の様子、成果]**

- ★ 予想より多くの片仮名が漢字に使われていたことに驚いていた。これからの漢字学習でもっと多くの片仮名が見つかるかもしれないと、漢字の形に関心をもててきた。
- ★ パーツに着目することを、これから習う複雑な形の漢字を覚える際にも生かしたり、パーツの仲間ごとに、意味の学習にもつなげたりできそうな手ごたえが感じられた。

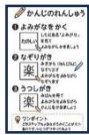

小学校	「聞く」ことのトレーニング
<p>★対象児童 (2)年 対象障害種 (ADHD)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が興味あることに気をとられて話が聞けず、名前を呼ばれても気付かない。</li> <li>・気が乗らないと課題に取り組みなかつたり、途中であきらめたりしてしまう。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名前を呼ばれたらすぐに気が付いて返事ができるようになる。</li> <li>・一斉授業の中で教師の話に意識を向けて聞くことができる。</li> </ul> <p>【自立活動 3人間関係の形成一(4)、6コミュニケーション一(1)】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「聞くカトレーニングブック」(マインEラボ・スペース)</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p><b>[学習内容と指導方法]</b></p> <p>○「名前をよぶよ」ゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1から6までの数字が書かれたカードを、教師がランダムに引く。</li> <li>・引いたカードの数字を児童には見せないで、カードに書かれた数字の回数だけ教師が「Kさん。Kさん。Kさん。」のように児童の名前を呼ぶ。</li> <li>・名前を呼ばれた回数だけ手を叩きながら、「はい。はい。はい。」のように返事をする。</li> </ul> <p>※学級にもどったときも、「Kさん。Kさん。」のように名前をわざと繰り返し呼んでみる。</p> <p>○「あっちこっち向いてほい」ゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・じゃんけん遊びの「あっち向いてほい」をする。</li> <li>・次に、「こっち向いてほい」をする。</li> <li>・最後に、「あっちこっち向いてほい」をする。</li> </ul> <p>※「こっち向いてほい」は「あっち向いてほい」と反対に、指さす方を向くと勝ちになる。</p> <p>○「まるを数えよう」ゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が音読する文章を聞きながら、読点の「。」の数を数を数える。</li> <li>・数えた読点の数が合っていたら、称賛する。</li> </ul> <p>※相手の話に間ができて、そこで話が終わるとは限らないために、集中を切らしてはいけないことを意識づける。そのため、読むときのスピードにわざと変化をつける。</p> <p>○「聞くカトレーニングブック」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーニングブックに書かれた短い文章を教師が読む。</li> <li>・聞き取れているかを確認する質問をする。</li> </ul> <p>例：「なんの花のお話でしたか？」など</p> <div data-bbox="997 1467 1157 1680" style="text-align: right;">  </div> <p><b>[児童の様子、成果]</b></p> <p>★「名前をよぶよ」ゲームの成果が学級でもあらわれ、自分の名前をよばれると気が付くようになってきた。</p> <p>★「まるを数えよう」ゲームは、3文～5文くらいの文書でも思ったより苦戦していた。</p>	

小学校	衝動的に行動してしまう児童への指導
<p>★対象児童 (2)年 対象障害種 ( 自閉スペクトラム症、ADHD )</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分が楽しい、面白いと思ったことを衝動的にしまいトラブルを招く。</li> <li>興味のあることをすぐ覚えて話すことができる。偏りがあるが記憶量が多い。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々なシチュエーションでの望ましい行動を知り、自分の行動を振り返って次の行動に生かすことができる。【自立活動3一人間関係の形成(3)】</li> </ul> <p>★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AI生成サービスによる画像を利用したワークシートの作成</li> <li>「こんなときどうする?! 友だちと仲良くすごすためのスキルアップワーク」(落合由香他、明治図書)</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p><b>[学習内容と指導方法]</b></p>	
<p>「これって○?それとも×?」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同じ行動でも、シチュエーションによっては望ましくない行動に変わるということ、また、行動の善悪について学ぶ活動を行った。</li> <li>ワークシートを利用し、画像を見比べて客観的に行動を捉え、どこを見て良い・良くないを判断したのかを問うことで、より望ましくない行動を改善する大切さについて理解できるようにした。</li> </ul>	
<p>「こんな時どうする?」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々なシチュエーションのワークシートを利用して、自分がその場面を体験したことがあるか、また、いくつかの言動の例を見て、その言動は○、△、×のどれを選ぶかなど、児童の体験・思考を具体的に探った。</li> <li>望ましくない(またはその逆)行動を選んだ場合でも、選んだ理由や背景を聞き、共感をしてから適切な行動を伝えた。</li> <li>児童が経験してそうな内容を精選し、より具体的に考えて自分の生活に生かされるように意識した。</li> </ul>	
<p><b>[児童の様子、成果]</b></p>	
<p>★ はじめは、ワークシートの内容と自分の生活を結びつけることが難しく、望ましい行動は分かっている、自分が普段している行動を振り返ることができなかつたが、回を重ねるごとに徐々に自分の行動を正直に振り返り話すことができていた。</p> <p>★ 「今日はどんな内容?」とワークシートに興味をもち、積極的に考えを述べた。学期末の振り返りには、「SSTをまた頑張りたい」と意気込んでいる。</p>	

小学校	読み書きに困難を示す児童への指導
<p>★対象児童 (2)年 対象障害種 (ADHD・読み書きの困難さ)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名や漢字を覚える苦手さは見られるが、手本を横に置いて正確に書くことができる。</li> <li>音読では、読み間違いや読み飛ばし、読み留まって時間がかかることがあるが、タブレットや絵カード等を操作しながら、読みや表記をゲーム感覚で意欲的に学習することができる。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スモールステップで読み書きに取り組むことで、学習への意欲を高めることができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【自立活動 2 心理的安定— (3)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読み書きや書字の傾向を見極め、児童の感覚や認知特性に合った支援を試み、読み書きの苦手意識を軽減する。</li> </ul> <p>★参考資料、有効だった教具・教材 (お役立ちグッズ) 等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「多層指導モデル MIM 読みのアセスメント・指導パッケージ」(梅津亜希子、Gakken)</li> <li>「SSTワークシート」(竹村正治、かもがわ出版)</li> <li>「ビジョントレーニング」(北出勝也監修、ナツメ社) ・「聞く聴くドリル」(和田秀樹、文英堂)</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p><b>[学習内容と指導方法]</b></p> <p>① <b>書く・読む力を高めるトレーニング</b> (MIM「よみ名人トレーニング」・国語の教材文等)  教材文の内容を理解することができるように、タブレットや絵カード、印刷物を活用しながら、MIM「よみ名人」のトレーニングに取り組む。また、教材文に振り仮名を書いたり、言葉のまとまりを捉えて音節で区切る線を引いたり、文字に指を添えたりするなど、児童が自分に合った方法を工夫しながら、音読することができるように取り組む。</p> <p>② <b>聞く力を高めるトレーニング</b> (聞く聴くドリル)  「何の音でしょう」「道順をよく聞こう」「暗号を読み取ろう」「お話を覚えよう」「メモを取ろう」等、音声のみの情報をしっかりと聞き取り、適切な答えを考える。集中して課題に向き合う力や必要な情報を正しく聞き取る力等を養い、課題を適切に解決できるようにする。</p> <p>③ <b>ソーシャルスキルトレーニング</b> (SSTワークシート・状況認知絵カード (《エスコアール》))  状況認知絵カードを見ながら、予想される続きの行動や言動について考える。また、コミュニケーションの基礎となる聞く態度や指示に従う大切さ、言語・非言語コミュニケーションの基本的なスキルについて学ぶことができるように取り組む。</p> <p>④ <b>視る力を高めるトレーニング</b> (ビジョントレーニング・ワークシート)  毎時間、視る力や集中力を維持するために、「点つなぎ」「線迷路」「平仮名・片仮名・漢字・数字ランダム読み」「間違い探し」(漢字)「矢印体操」「まねっこ体操」等に取り組む。</p> <p>⑤ <b>身体を動かすトレーニング</b>  毎時間、姿勢保持や集中力の維持、体幹を鍛え、バランス感覚を養うために、「上体起こし」、「腕立て伏せ」、「反復横跳び」「縄跳び」等、時間を設定して取り組む。</p> <p><b>[児童の様子、成果]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 毎時間、学習内容を「書く」「読む・話す」「聞く」「視る」「SST」「身体を動かす」とパターン化することで、見通しをもち安定して、意欲的に学習に取り組むことができた。</li> <li>★ 通級ファイルに学習や振り返りのワークシートを綴じ、ご褒美シールを貼ったり、前回とタイムや回数、個数等を比較したりすることで、スキルアップしていると実感することができている。</li> <li>★ 保護者や担任と連携し、通級で学習したことを、通常学級や家庭学習で生かし、前向きに考えようとしている。</li> <li>★ 多層指導モデル MIM 等を活用することで、特殊音節の読み書きが上達している。</li> </ul>	

小学校	相手の状況や気持ちを考えて行動するための指導
<p>★対象児童 (2)年 対象障害種(自閉症スペクトラム)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の立場に立って考えることが難しく、自分の思いを優先し、友だちとトラブルになることがあるが、イラストを描いたり実物を見せたりしながら状況を説明すると、相手の気持ちを想像することができる。</li> <li>気持ちの言葉の語彙が少ないが、イラストと言葉をつなげることはできる。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な場面で、こんなときどうするか考える活動を継続して行うことで、登場人物の気持ちを理解することができる。</li> <li>周りの状況を見て、友だちと適切に関わることができる。</li> </ul> <p>【自立活動3人間関係の形成 ー(2)】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学びと育ちのサポートワークソーシャルスキル『柔軟性』アップ編」(加藤博之、明治図書)</li> <li>どんな気持ち?(自作) ・言葉変身カード(自作)</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p><b>【学習内容と指導方法】</b></p> <p>① 気持ちを考える</p> <p>○気持ちの言葉と顔の表情のイラストをマッチングする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鏡の前で、様々な気持ちの表情をつくり、どんな時にそのような表情になるか考える。</li> </ul> <p>② セリフを考える</p> <p>○様々な場面での人物の気持ちを考えて、吹き出しに言葉を入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イラストから状況を理解する。</li> <li>登場人物の立場を考え、登場人物になりきって、せりふを言う。</li> <li>4コマ漫画の最後の場面とせりふを考えることで、場面状況と人物の気持ちの理解を促す。</li> </ul> <p>③ 友だちと関わりながら学ぶ</p> <p>○複数の児童で活動し、その都度関わり方を学ぶようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふわふわ言葉とちくちく言葉・・・言葉の違いを知り、ふわふわ言葉を使う機会を設ける。</li> <li>協力して成功させる・・・ミッションを与え、協力しながらミッションをクリアする。</li> <li>自由に遊ぶ・・・自由時間を設け、仲良く遊べるように関わり方をその都度考えていく。</li> </ul> <p><b>【児童の様子、成果】</b></p> <p>★セリフを考える活動では、物に執着し、なかなか気持ちに目を向けることが難しかったが、表情に注目するよう繰り返し伝えることで、どんな気持ちか想像して「たのしい」「かなしい」「うれしい」などの気持ちの言葉が入ったせりふを書くことができるようになってきた。</p> <p>★複数での活動では、気に入らないことがあると、すぐに相手を批判する言葉が出ていたが、その都度、他の言い方に変換するようにすることで、すぐに言葉を発することなく、考えてから相手に伝えることができるようになってきた。</p> <p>★通級教室では、自由時間は一人で好きなことをしている時間が多く、友だちの誘いに嫌そうな顔をしていたが、最近は、かくれんぼを一緒に楽しむ姿が見られる。</p> <p>★交流学級では、片付けが遅れている友だちを見つけ、「手伝おうか」と声をかけたり、泣いている友だちを見つけ、「悔しかったんだね」と言いながら背中をさすったりする姿が見られた。</p>	



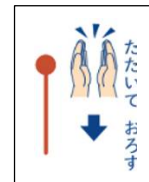
小学校	<p>「聞く力」「やり遂げる力」を育む！ 構造化と視覚支援による集中力・自己コントロールの支援</p>
<p>★対象児童 (2)年 対象障害種(境界線知能・多動性障害)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話すことが好きで、質問に答えたいという意欲も高いが、すぐに自分の考えを口にしてしまう。</li> <li>・漢字練習では、①～⑩まで書くといった指示だけでは、どこを書けばよいのか分からなくなったり、単語を書いている途中でも気持ちが他に移ったりし、別の文字を書き始めてしまうことがある。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の流れを確認して見通しをもち、音声を最後まで集中して聞くことができる。 【自立活動4環境の把握ー(1)2心理的な安定ー(3)】</li> <li>・聞いた内容についての質問に対し、答えることができる。【自立活動6コミュニケーションー(1)】</li> </ul> <p>★参考資料、有効だった教具、教材(お役立ちグッズ)等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「きくきくドリルSTEP①」(村上裕成、文英堂) ・漢字スキル練習手順表(自作)</li> </ul>	
<p>学習内容や指導方法、児童の様子等</p>	
<p>1、聞く聞くドリル</p> <p>(1) お話を聞いて、合っている時は○、違う時は×をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・途中で答えたくなくても我慢し、最後まで聞くように促す。短い音声から始めて段階的に難易度を上げ、必要に応じて視覚支援で理解を助ける。</li> </ul> <p>(2) 当てはまるものを答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お話を聞いて、その内容に当てはまるものを言葉で書く活動。</li> <li>・お話の大事な部分を意識して聞くように促し、必要に応じて選択肢や絵など視覚支援を用いて、書く内容を明確にする。</li> </ul> <p>(3) お話を繰り返す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お話がおわったらすぐに繰り返して言う活動。細部まで聞き取らないと単語や助詞が変わってしまう。</li> <li>・短い話から始め、繰り返しの練習を行う。間違いはすぐに訂正せず、必要に応じてキーワードや絵カードで確認する。</li> </ul> <p>(4) お話に答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1つのお話を聞いて、それを覚えて質問に答える問題。</li> <li>・口頭で答え、理解を確認してから書かせる。書けない単語は視覚的なヒントを出し支援する。</li> </ul> <p>2、漢字練習手順表を使っての漢字練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①読み仮名→②なぞり書き→③写し書きのステップで行う。</li> <li>・すべてのステップで、読みながら、なぞったり写したりする。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p>【児童の様子、成果】</p> <p style="text-align: right;">漢字スキル練習手順表(自作)</p> <p>★ 集中することが困難な本児に対し、話を聞く活動をルーティーン化し見通しを持たせたことで、本児は安心して集中を持続できた。指導者は、活動の安定に伴い、本児が話を思い込みで聞き、言葉の細部を捉えられていないことに気付き、次なる個別課題の設定へとつなげることができた。</p> <p>★ 漢字学習では、読みながら書くという複数の動作を同時に行うことで、かえって気が散らず、集中して書くことが分かった。今後は、手順表を家庭学習でも取り入れ、より安定した学習習慣の定着を目指したい。</p>	

小学校	漢字学習に対しての不安感を減らし、意欲を喚起するための指導
<p>★対象児童 (2)年 対象障害種 (ADHD)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>元来、学習への意欲は高く、できそうなことについては意欲的に取り組む。手先が器用である。</li> <li>衝動性が高い。他責的な言葉が多い。恐がりである。学校生活や家庭での学習場面において、不安を感じる活動については、その場から離れるなど、学習態勢に課題が見られる。今まで習った漢字で正しく読める漢字は少なく、そのことが、学習への意欲をさらに低下させている。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学級や家庭において、個別の言葉掛けで漢字練習に取り組むことができるようになる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【自立活動2心理的な安定—(3)】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材 (お役立ちグッズ) 等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「意味からおぼえる漢字イラストカード 1年生」、「意味からおぼえる漢字イラストカード 2年生上」、「意味からおぼえる漢字イラストカード 2年生下」など (かもがわ出版)</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p><b>[学習内容と指導方法]</b></p> <p><b>【学習内容】(1) 既習の漢字の読み</b></p> <p>準備: 「意味からおぼえる漢字イラストカード」から、学校生活の中でよく使う漢字のイラストカードを5枚程度選んでおく。</p> <p>指導方法: イラストカードをフラッシュカードとして利用する。答えは、本人がカードをめくって確認する。1回のトレーニングは5分程度。それらの読みが定着するまでは、同じカードで、毎週練習する。</p> <p><b>【学習内容】(2) 新規学習の漢字の読みと再構成</b></p> <p>準備: 「意味からおぼえる漢字イラストカード」から、新規に学習した漢字のうち、生活の中でよく使われていて画数の少ない漢字のイラストカードを選び、透明シートに漢字部分だけをコピーしておく (以下 透明漢字カード)。※透明シートにしておくことで、正誤をコピー元のイラストカードに重ねて確認できる。また、パズルが裏返しになっていても見た目は変わらないため、パズルとしての面白さが増す。</p> <p>指導方法: 透明漢字カードをハサミで切り分けて、パズルとして利用する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 透明漢字カードの読みを確認する。(マッチングで読みを参照できるように、コピー元のイラストカードを横に並べておく。)</li> <li>② 透明漢字カードを、本人がはさみで4個程度に切り分けて、漢字パズルにする。漢字3~5個でパズルセット1個完成。</li> <li>③ 翌週、パズルセット1個を完成させて、イラストカードとのマッチングで読みが言えたら合格。慣れてきたら、参照用のイラストカードを隠しておいて、読みが言えるようになったところで、そのパズルセットは修了。</li> </ol> <p><b>[児童の様子、成果]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習漢字の読み、新規学習の漢字の読みと再構成、どちらの学習にも意欲的に取り組んだ。特に、自分ではさみを使って漢字パズルを作る活動では、面白いパズルになるよう工夫していた。翌週には、その工夫を自ら楽しんでパズルを完成させていた。</li> <li>学級では、離席することはほとんどなくなり、ノートに文字を書く活動にも、個別の言葉掛けがあれば取り掛かるようになった。家庭では、自主勉強で漢字練習に取り組んでいる。</li> </ul>	

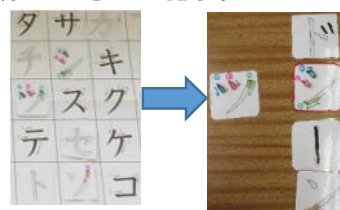
小学校	片仮名の読み書きに慣れるための指導
<p>★対象児童 (2)年 対象障害種 (言語発達遅滞・情緒障害)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集中して活動することは苦手であるが、何事にも興味をもって取り組むことができる。</li> <li>・言葉のまとまりを捉えて読むことや文字を書くことが苦手であるが、自分の思いを進んで話すことができる。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色や手触り、音の動作化などにより片仮名の文字に注目し、言葉のまとまりを捉えて読んだり、なぞり書きをしたりすることができる 【自立活動4環境の把握一(2)】</li> <li>・絵や写真と片仮名の言葉を結び付けて理解し、自分の言葉で説明することができる。 【自立活動6コミュニケーション一(3)】</li> </ul> <p>★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白抜き書き順つきカタカナカード、ひらがなカード(特別支援デザイン研究所の文字をもとに作成)</li> <li>・カタカナ50音表(教育出版小学校国語科教授資料)・音の動作化カード(東京書籍1年の教科書をもとに作成)</li> <li>・「多層指導モデルMIM『読みのアセスメント・指導パッケージ』ガイドブック」(Gakken)</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p><b>[学習内容と指導方法]</b></p> <p>①前時の振り返りと課題の見通し</p> <p>○生活の中にある片仮名に興味をもたせ、学習意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中から見つけた片仮名を発表し、教室掲示につけたす。</li> <li>・本時の課題をホワイトボードに示し、見通しをもたせる。</li> </ul> <p>②片仮名見つけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ピーパーの大工事」の文章から片仮名を見つけて、線を引く。</li> </ul> <p>③音の視覚化・動作化</p> <p>○長音など音のイメージが理解できるように、手の動作化カードを貼って音を視覚化し、文字と音と手の動きを対応させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字と手のたたき方を対応させて、児童と一緒に貼り、動作化しながら言葉を読む練習を行う。自ら取り組む姿に対してプラスの言葉をフィードバックする。</li> </ul> <p>④意味の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○言葉と写真を結び付け、考えたことを話すことで、言葉と音と意味を結びつける。</li> <li>・「ガリガリ」など、写真の様子と結び付けて誰が何をしているか様子を考えて話す。</li> </ul> <p>⑤片仮名の言葉づくり・なぞり書き</p> <p>○音と文字を結びつけるために、音を聞いて言葉づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・片仮名の言葉を聞いて、50音表の上に乗せた文字から選んで、言葉を並べる。似た形の文字の違いを把握しやすいように、始筆の手触りを変え筆順を色分けしたカードを用いる。書く活動へつなげるために、指でのなぞり書きやペン書きを行う。</li> </ul> <p>⑥片仮名のかくれんぼ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・片仮名なぞクロスを用いて、動物の名前見つけをする。</li> </ul> <p><b>[児童の様子、成果]</b></p> <p>★生活から見つけてきた「シャインマスカット」の文字を、初めは正しく読めなかったが、③の活動で手をたたきながら読む練習をすることで、読めるようになった。教材から見つけた言葉を読んだ後に、すべての言葉を長くつなげて何度も楽しんで読んでいた。</p> <p>★50音表の上に乗せたことで、あいうえおを唱え、「シ」や「ツ」を試行錯誤しながら見つけていた。1音ずつ並べ、板書の言葉と比べることで、伸ばす音「一」があることにも気付けた。</p>	



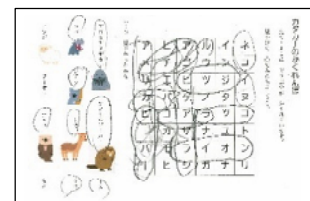
【文字と音と意味をつなげる板書】



【音の動作化カード】

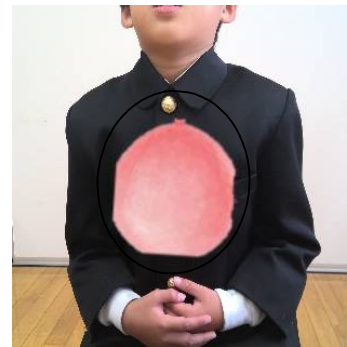


【50音表から試行錯誤して並べた言葉】



【カタカナかくれんぼ】

小学校	聞く力を伸ばし、コミュニケーション能力を高める指導
<p>★対象児童 (2)年 対象障害種 ( ADHD )</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意や集中を継続して学習に取り組むことが難しく、指示通りできにくい。</li> <li>・聴覚認知に弱さがあり、音読や発表の声がはっきりしない。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話している人に注目し、落ち着いて考えたり集中して取り組んだりする。 【自立活動4環境の把握一(2)】</li> <li>・自分の思いや考えをはっきりと話す力を身に付ける。 【自立活動6コミュニケーション一(5)】</li> </ul> <p>★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おやこでいっしょに『きくきくドリル』STEP1・2・3」(村上裕成、文英堂)</li> <li>・「会話練習ワーク 100枚プリント」(葛西ことばのテーブルにほんごの凡人社)</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p><b>[学習内容と指導方法]</b></p> <p>① 呼吸の仕方を知ろう</p> <p>教師と一緒に、おなかの底から腹式呼吸をすることで、呼吸をしていることを意識する。おなか膨らむ動きと風船が膨らむイメージを重ねて、正しい姿勢で「風船の呼吸」を繰り返す。深い呼吸で空気をたくさん吸って声帯の振動が大きくなり、聞き取りやすい力強い声が出るようにする。</p> <p>② 話を聞いて指示に従おう</p> <p>「きくきくドリル」の「3どっちへすすむ」の問題を聞きながら鉛筆を持った手を動かす練習をする。聞こえてくる言葉をよく聞いて1マスずつ鉛筆を進める。この作業を続けることで、教師の話を集中して聞きながら要点をすばやく書きとめる力も育てる。</p> <p>③ 言葉の使い方を練習しよう</p> <p>会話練習カードとペープサートを使って、教師と会話の練習をする。</p> <p><b>例</b> 36:「行く」と「来る」</p> <p>A じゃあ、<u>昼休みに来てくれる</u>?</p> <p>B 昼休みは、約束があるから<u>行けない</u>なあ。</p> <p>A それなら<u>帰りに来る</u>ことはできるかな?</p> <p>B はい、それなら<u>行ける</u>と思います。</p> <p><b>練習</b> ・ぼくがおじいちゃんの家( )。 ・おじいちゃんがぼくの家( )。</p> <p><b>[児童の様子、成果]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 「風船の呼吸」は少しずつ意識できるようになり、大きく口を開けてはっきりとした大きい声が出せるようになってきた。</li> <li>★ 会話練習を繰り返すことで、カードを見たり言いたいことを書いたりしなくても、教師の言うことをよく聞いて、自分の思いも入れながら伝えることができるようになってきた。</li> <li>★ 聞く時間・考える時間・書く時間を配分し、複数のことを同時進行しない授業を教師が意識したことで、授業にメリハリが付き、児童が集中できる時間が長くなってきつつある。</li> </ul>	



小学校	自分に合った読み方を見つけ自己肯定感を高める指導
-----	--------------------------

- ★対象児童 (2)年 対象障害種 (学習障害)
- ★対象児童の特徴
  - 耳からの情報は入りやすく会話はできるが、文字の想起に時間がかかり、音読は逐次読みで内容を理解することが難しい。
  - 作業の能力に優れ、文字を写して書くことはできるが、一度間違えたり、注意を受けたりすると気分が落ち込み、固まることがある。
- ★目標
  - 耳からの情報や作業を取り入れることで、楽しく自分に合った音読練習に取り組み、自信をもつことができる。
  - 親子で読書を楽しむことができる。
- 【自立活動2心理的な安定一(3)】
- ★参考資料、有効だった教具・教材 (お役立ちグッズ) 等
  - 「デジタル教科書・単語マッチングカードゲーム」(湯澤正通、合同出版)

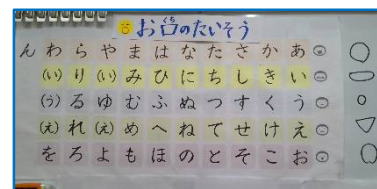
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

**[学習内容と指導方法]**

① 音読練習

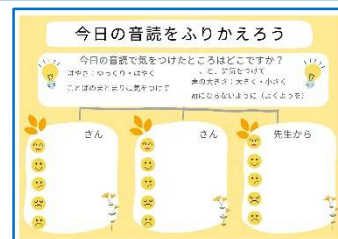
○お口の体操

- 口形を意識しながら、50音表での発音練習をする。
- 早口言葉で楽しく声出しをする。



○聴覚を利用した内容の把握

- デジタル教科書の範読を聞き、話の内容を大まかに捉える。
- 分からない言葉を確認する。



○拡大した音読用紙にポイントの書き込み

- 言葉のまとまりをチェックして、丸で囲む。
- 句読点をチェックして、赤丸をつける。

○目標を決めて、ワークシートでの振り返り

- 動画を撮り、振り返りに使用する。(前の自分との比較)
- ペアの友だちと評価し合い、自己肯定感を高める。



② 語彙の拡充

○市販の単語マッチングカードゲーム

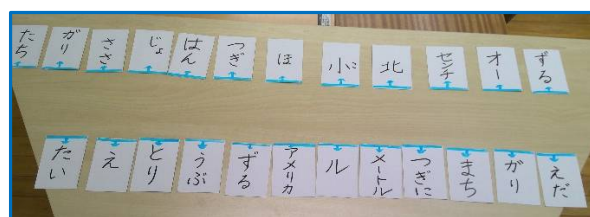
- 言葉のまとまりや特殊音節に親しむ。

○単元にある単語マッチング

- 楽しく単語を増やし、音読に生かす。

○読み聞かせ

- 絵本に親しみ、ストーリーを楽しむ。



**[児童の様子、成果]**

- ★ 通級での音読タイムを楽しみにしている。特に、ペアの友だちと動画を撮るのが好きで、前の自分と比べることで自分の成長が分かり、自信になった。家庭でも、「23が60運動」の期間中に「自分から本を読む姿が見られている」と連絡帳でお知らせがあった。
- ★ 単語マッチングでは、ゲームの中で自然と読む活動ができ、単元で出てきた言葉を並べると「知ってる! OOの中に出てきた。」と言いながら取り組み、音読にも生かすことができた。

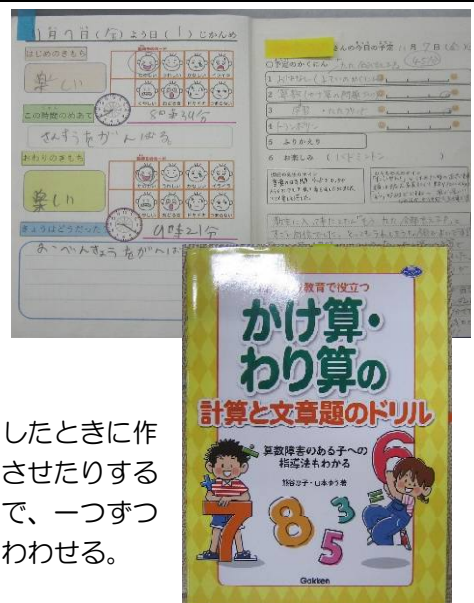
小学校	問題作りを通してかけ算の理解を深めるための指導
-----	-------------------------

- ★対象児童 (2)年 対象障害種 (ADHD・LD)
- ★対象児童の特徴
  - ・興味のあることには熱心に取り組むことができるが、うまくいかないことがあると、衝動的に怒ったり泣いたりすることがある。
  - ・読んで意味を捉えること、聞いて書くことが苦手である。
- ★目標
  - ・視覚的に有効な教材を用いるなど自己の特性に応じた方法で学習に取り組むことで、分かることの喜びを味わい、自分に合った注意集中の方法を積極的に取り入れることができる。

【自立活動 2.心理的な安定-(3)、4.環境の把握-(2)】
- ★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)
  - ・「ハンター算数/1コマ漢字(アプリ)」(Goobee)・NHKONE for school「でこぼこボン!」「キキとカンリ」
  - ・「きくきくドリル」(村上裕成、文英堂)
  - ・「特別支援教育で役立つ たし算・ひき算の文章題ドリル」(山本ゆう、学研)
  - ・「特別支援の国語(初級・中級・上級)」(赤塚智美、学研)
  - ・「特別支援の算数(初級・中級・上級)」(伊庭葉子、学研)

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

- [学習内容と指導方法] 1 時間の流れ**
- 1 今どんな気持ち? 予定の確認 本時のめあてを決める
    - ・今の気持ちや最近の出来事を教師と話すことによって気持ちを整え、学習に取り組みやすいようにする。
    - ・予定の確認を一緒に行い、本時のめあてを自分で決めさせ、見通しをもって納得して学習に取りかかる。
  - 2 チャレンジタイム
    - (1)ビジョントレーニング (2)きくきくドリル
    - (3)ハンター算数 ・九九の習熟を目指して、タブレットで
  - 3 算数「かけ算の問題作りをしよう」
    - ・半具体物を操作したり、以前に、たし算やひき算の問題作りをしたときに作ったワークシートを見て、図や式から問題文を作ったことを想起させたりすることで、問題文⇔図⇔式⇒答えができるようにする。段階を踏んで、一つずつ習得を確認し、その都度賞賛しながら進めることで、達成感を味わわせる。
  - 4 トランポリン
    - ・頭でタッチ←真上に跳ぶことで体の軸を感じ、平衡感覚を刺激する。
    - ・矢印の方向を腕で示す←跳びながら一点を見続けることで眼球運動のトレーニングにもなる。
  - 5 ふりかえり おたのしみ
- ※それぞれの活動の終わりをタイマーで知らせ、その際、席を立ったり軽く体を動かしたりして気持ちの切り替えをする。学習の始めに自分で設定した目標が達成できたかどうかを自己評価させるとともに、教師も評価し賞賛することで、達成感を味わわせ次回の活動への意欲化を図る。



**[児童の様子、成果]**

- ★入級した当初は、算数の計算や文章題に苦手意識を持ち、分からないとイライラする様子もあったが、静かな環境で特性に応じた教材を使い学習する中で、理解できるまで根気よく取り組もうとするようになった。
- ★家庭でも、宿題をする際に、分からない、と怒って投げ出すことがなくなり、自分から教えてほしいと言って、最後まで取り組めるようになった、ということである。
- ★学習の初めに自分で決めた目標に挑戦して自己評価をするという活動を繰り返すことで、うまくできている自分を実感して自信がもてるようになり、学習にも前向きに取り組むようになってきた。

★対象児童 (3)年 対象障害種 (自閉スペクトラム症)

★対象児童の特徴

- ・真面目すぎる性格で、失敗や間違いを周囲からどう思われるか不安に感じる。それにより、集団の中で生活することが難しい。
- ・教師と1対1で学習することは好きで、意欲的に通級の活動に取り組むことができる。

★目標

- ・自分が不安になる時の状況を正しく理解することができる。
- ・失敗したり間違ったりしても大丈夫、というポジティブな考え方ができるようになる。

【自立活動2心理的な安定—(1)、3人間関係の形成—(3)(4)】

★参考資料、有効だった教具・教材 (お役立ちグッズ) 等

- ・「ココロメソッドで学ぶ ことばを育てるワークシート」(合同出版)

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

**[学習内容と指導方法]**

① **自分と他者との考え方の比較**

「失敗した」「できなかった」などの状況を「他者の場合」「自分の場合」で比較して考える活動を行った。

- 自信をもって発表したのにまちがえた。  
(他者)そんなこともあるよ。(自分)やっちゃった!
- テスト中に筆箱を落としてガシャン!と大きな音になった。  
(他者)大丈夫かな? (自分)みんなに迷惑かけた!

このように、本児は他者の失敗に対しては優しい考え方ができるが、自分の失敗には強いショックを抱く様子だった。他者への考え方を参考にして、本児の失敗もみんなは悪く思っていないから大丈夫、という考え方を教えた。

② **ネガティブな考え方をポジティブに変える**

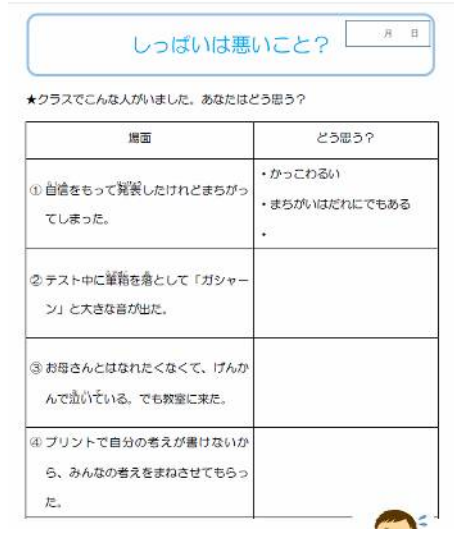
「ネガ・ポジ変換」のワークシート (他校の実践を参考に自作したもの) を活用し、ネガティブな気持ちになった時に、前向きでポジティブな考え方に変わっていく練習を行った。「大丈夫」「気にしない」「なんとかなる」などを「ポジティブになれる呪文」として、①のワークシートと同じ状況が起こった時を想定して呪文を使ってみる練習をした。

- 自信をもって発表したのにまちがえた。  
→気にしない、こんな時もある。失敗は成功のもと!
- テスト中に筆箱を落としてガシャン!と大きな音になった。  
→はすかしいけど、気にしない。切りかえてテストをがんばろう!

**[児童の様子、成果]**

★通級による指導を始める前は長期の欠席が続いていたが、通級の時間は登校することができるようになった。仲の良いクラスメイトが通級教室へ遊びに来ると、楽しそうに関わる事ができた。秋の校外学習にも参加した。

★「失敗はやっぱり怖い」「人の失敗は気にならないけれど、自分には難しい」と今も言うことがあるが、通級の時間の「ネガポジ変換」はすぐにできるようになった。今後は集団で過ごす時に実践できるように、サポートを続けていきたい。



小学校	自分の怒りポイントを知り、感情をコントロールするための指導
<p>★対象児童 (3)年 対象障害種 (ADHD)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正義感が非常に強く、友達が悪いことをしているときには先頭に立ってその行動を止めたり注意したりすることができる。</li> <li>自分の感情をコントロールするのが苦手で、やりたくないことがある時は大声を出したり教室を飛び出したりすることが多い。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>怒りを感じる場面が描かれているカードを分類しながら、自分の怒りのポイントを知り許容することができる場面について考えることができる。</li> </ul> <p>【自立活動3人間関係の形成—(3)】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材 (お役立ちグッズ) 等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「みんなの怒りスイッチをさがせ! ゲームで身につくアンガーマネジメント」 (合同出版)</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p><b>【学習内容と指導方法】</b></p> <p>①怒りの感情が出てきそうな場面が書かれたカードを、「許せる」「まあ許せる」「許せない」に分ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の怒りポイントが客観的に認識できるよう、「許せる」「まあ許せる」「許せない」の3つの札を用意し、それぞれの場面カードを当てはまる札の上に置いていく。</li> </ul> <p>②それぞれのカードについて、どうしてその分類にしたのか、理由を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「許せない」場面について話をする時は、本児なりのこだわりがあると思われるので、否定や拒絶をするのではなく、受容的な態度で本児の話を聞くようにする。</li> <li>本児の正義感が強いという強みを生かし、よくない行動への怒りの感情には共感の気持ちを伝え、自尊感情を高める。</li> <li>「許せる」場面でのつぶやきは、吹き出しにして視覚的に印象に残るようにする。</li> </ul> <p>③「許せる」の場面で吹き出しに書いた言葉を使って、ロールプレイを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ロールプレイで使えた言葉を覚えておくと、イライラした時も落ち着くことができると伝え、日常生活での意欲化を図る。</li> </ul> <p><b>【児童の様子、成果】</b></p> <p>★「許せない」のカードを選んだ理由を自由に語らせた。本人に自分の思いを語らせることで、自分はこんなことで怒るのだ、こんなことが許せないのだと自己理解につなげることができた。</p> <p>★以前同様の授業をした時と比べ、「許せる」のカードが少なくなっていた。それを見た本児が「前より少なくなってしまった」と残念そうに言っていた。本人なりに「許せる」のカードが増えるのがよいことなのだと感じているのかもしれない。教師側が「許せる」が多いのがいよいよと伝えたことはないが、本人が少しでも「許せる」自分に近付けるよう、支援を続けていきたい。</p>	



【「許せる」場面での児童のつぶやき】

小学校	自己の理解と行動の調整のための指導
<p>★対象児童（3）年 対象障害種（ADHD）</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イライラした時、他人の物を落としたり散らかしたり、ドアを蹴ったりすることがある。</li> <li>・怒りのピークを越えると、自分で落ち着く場所を探すことができる。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な気持ちの落ち着け方について考えることができる。</li> <li>・適切な方法で気持ちを落ち着かせることができる。</li> </ul> <p>【自立活動3人間関係の形成一（3）】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材（お役立ちグッズ）等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「イライラした時、どんなことしてる？」（パワーポイント資料）</li> <li>・生成 AI サービス</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p><b>[学習内容と指導方法]</b></p> <p>① 自分の行動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までにイライラした時の行動を書き出しておき、クイズ形式で出題する。</li> </ul> <p>② 直近のイライラした時の行動を思い出し、その後どうなったか確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イライラして靴箱の靴を床に落としたが、その後靴を片付けようとしたことを伝える。</li> </ul> <p>③ ②の行動を本人のよいところとして伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・靴の持ち主の気持ちを想像できるように問いかけ、片付けのよさを感じられるようにする。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div data-bbox="300 1205 868 1346" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">くつの持ちぬしはどう思う？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くつが落とされてばらばら</li> <li>→「落とされてかなしい」「なんで落とされてるんだ！」怒る</li> </ul> </div> <div data-bbox="906 1205 1305 1346" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">くつの持ちぬしはどう思う？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くつがくつばこの上にある</li> <li>→「なんで、ここにあるんだろう？」</li> </ul> </div> </div> <p>④ 自分がイライラした時取る行動の中でよい怒り方はどれか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よい怒り方とよくない怒り方があることを伝える。</li> </ul> <p>⑤ イライラした時のよい怒り方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生成 AI を使ってよい怒り方の例を挙げるよう指示する。</li> <li>・例の中からやってみたいと思うものを選ぶよう指示する。</li> </ul> <p><b>[児童の様子、成果]</b></p> <p>★ 自分のイライラした時の行動を「言いたくない」と言っていた児童がクイズ形式にすることで「～～した」と言うことができた。</p> <p>★ 生成 AI サービスを使って例を挙げることで、「ぬいぐるみを叩く」方法をやってみたいと思うことができ、実際にイライラした時にぬいぐるみを叩いている姿が見られた。</p>	

イライラしたとき、こんなことした

- ・3年生のく
- ・3 3のみんなのつ
- ・すみっこで
- ・3 3のぞ
- ・ろうが
- ・ドア
- ・「こ
- ・「う
- ・「さ

小学校	書くことにつまずきがある児童への指導
<p>★対象児童 (3)年 対象障害種(学習障害の疑い)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞く力は強く、聞き取った内容はよく覚えている。</li> <li>・促音や片仮名で書くことが十分に定着していないことも含め、国語全般に困難さをもっている。また通常の学級において、話し合い活動等で困っている。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章をすらすら読んだり、書く時の誤字脱字を減らしたりすることができる。</li> </ul> <p>【自立活動6 コミュニケーションー(3)】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「きくきくドリル」(村上裕成、文英堂)</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p><b>【学習内容と指導方法】</b></p> <p>○日常生活における身だしなみ等の確認。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体操服をきれいにたたむ理由や、シャツをズボンに入れておく理由を分かるように説明することで普段の生活でも活かすことができる。</li> </ul> <p>○きくきくドリルを活用。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児童の長所である聞く力を伸ばしていくために活用。一人で集中して音声を聞くことで集中力が高まり、他の活動にも取り組むことができる。</li> <li>・間隔をあけて同じ問題に取り組むことで、正答率も上がっていくので、自尊心も高まっている。</li> </ul> <p>○市販のワークの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年相当のワークを使用。国語辞典を使って、一緒に意味を確認し、本人の語彙増加をねらう。</li> <li>・ローマ字は、お手本を見ながらなぞるところから練習している。</li> </ul> <p>○本人の好きなものを取り入れた片仮名指導。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が興味をもっているゲームのキャラクターや身近な題材を課題に設定する。</li> <li>・自力で「できた」と感じられるように、最初は書き順については厳しく指導しない。</li> <li>・どんどんでき始めたら、細かな部分も指導していく。</li> </ul> <p><b>【児童の様子、成果】</b></p> <p>★学校生活での大事なことを本人に分かりやすく説明することによって、通常学級でも意識して体操服をたたんだり、プリントを連絡袋に片付けたりができるようになってきた。</p> <p>★本人が興味をもっているゲームのキャラクターを取り上げて、課題にすることによって片仮名を書くことにも苦手意識が減ってきていると感じる。</p> <p>★少しずつできることが増えてきているので、意欲的に、通級で学習に取り組むことができている。</p>	



小学校	コミュニケーションに課題のある ASD と ADHD 児童への指導
<p>★対象児童 (3) 年生 2名 対象障害種 (ASD・LD 傾向のある ADHD)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <p>(M 児)・場面緘黙の傾向があり、友だちに話しかけられると答える程度で、自分から話しかけることはない。表情が乏しく、コミュニケーションにおいて課題が多い。</p> <p>(G 児)・気が散りやすく、集中力が続かない。活動にむらがある。話を順序立てて分かりやすく話すことが苦手である。</p> <p>★指導目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・順序だてて、相手に伝わりやすい話し方をする。【自立活動6 コミュニケーション – (3) (5)】</li> <li>・4コマのイラストを順番に並べ替え、話を作ることで状況に応じたコミュニケーションがとれるようになる。</li> <li>・顔の表情を読み取り、登場人物のセリフを考えることで他者の意図や感情を知ることができる。【自立活動3 人間関係の形成 – (2) (3)】</li> <li>・感覚運動を通して体を協調的に使う感覚をつかむことができる。【自立活動5 身体の動き – (5) 4環境の把握 – (4)】</li> </ul> <p>★参考資料、有効だった教具・教材 (お役立ちグッズ) 等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教室で使えるコグトレ」(宮口幸治、東洋館出版社)</li> <li>・「コグトレ 認知機能強化トレーニング」(宮口幸治、三輪書籍)</li> <li>・「SST ワークシート」(LD 発達相談センターかながわ、かもがわ出版) ・感覚運動教材</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p><b>[学習内容や指導方法]</b></p> <p>①ビジョントレーニング 迷路・かたち探し・点つなぎなどで集中力を高める。眼球運動の向上を図る。</p> <p>②すきな〇〇クイズ 好きな動物や果物などをヒントをもとに当てあう。ルールを守って丁寧な言葉遣いで話をする。コミュニケーションの基礎となる傾聴態度に気を付ける。</p> <p>③お話の順番を考え、セリフを考えよう 4 コマのイラストを順番通りに並べ替えて登場人物のセリフを考える。登場人物の顔の表情を見て話の順番やセリフを考える。順番に筋道の通った話をする練習を行う。</p> <p>④感覚運動やゲームによる「目と手の協応動作」の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールキャッチ・・・紙コップでボールをふわりと受け止める。</li> <li>・棒体操・・・新聞紙で作った棒を投げたりつかんだり回したり操作をスムーズにできるようにする。</li> <li>・命令運動・・・赤 (とまれ) 黄色 (走れ) 青 (歩け)、牛 (歩け) ウサギ (跳ぶ) 犬 (走れ) 木 (とまれ) など色やイラストの画面を見て、その命令通りの動作ができる。</li> </ul> <div data-bbox="1018 947 1513 1272" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1059 1283 1453 1323" data-label="Caption"> <p>お話を順番に並べてお話を作ろう</p> </div> <div data-bbox="1050 1344 1473 1491" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1070 1518 1401 1559" data-label="Caption"> <p>コグトレ棒 (新聞で自作)</p> </div> <p><b>[児童の様子、成果]</b></p> <p>★ (M 児)・登場人物の顔の表情や様子を見て順番に並べることがまだ苦手である。回数を重ねることで並べることができつつある。友だちの発表を聞いて、登場人物の気持ちを想像でき、セリフを考えることができた。不器用で体の動きや手指の使い方がぎこちなかったが、感覚運動指導でだんだんと身体の使い方がうまくなってきた。</p> <p>★ (G 児)・指導を通して普段の話し方がスムーズになった。分かりやすく話そうとしたり、詳しく話そうと形容詞をたくさん使って話をしたりするようになってきた。ビジョントレーニングで眼球運動が向上し、画数の多い漢字も書けるようになってきた。</p>	

小学校	書字に課題のある児童のための指導
-----	------------------

- ★対象児童 (3)年 対象障害種 (LDの疑い)
- ★対象児童の特徴
  - ・漢字を書くことが苦手である。手本を見ながら書いても、画の交わり方や画数を正確に書くことが難しい。また、自己流の独特な書き順で書いている。学習意欲は高く、指示されたことには一生懸命取り組む。
- ★目標
  - ・自分に合った漢字の練習方法を見付けることで、正しく書ける漢字を増やす。
 【自立活動2心理的な安定-(3)】
- ★ 参考資料、有効だった教具・教材（お役立ちグッズ）等
  - ・ 水書セット、ホワイトボード、大きめのマス目を用いた練習用紙

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

**[学習内容と指導方法]**

① 本時の課題の確認

- ・本時に練習する漢字（3～4文字）を本人と一緒に決める。最近学習した漢字、友達の名前に使われている漢字などから、本人が書きたい漢字を選ぶことで、学習意欲を高める。(図1)

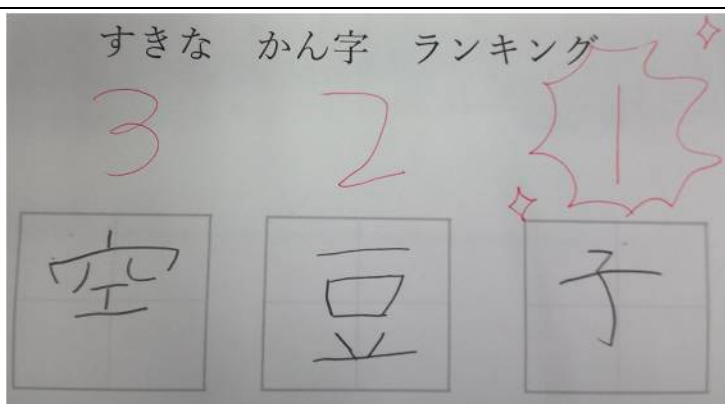


図1

② 練習方法(1)～(3)を示し、一緒に練習する。

- (1) 水書板に教員が大きく手本を書き、それを見ながら水書板に書く。(図2)
- (2) 水書板と同様に、ホワイトボードに練習する。
- (3) 大きめのマス目が印刷されたプリントに、鉛筆で書く。



図2

③ 本時の成果と次回の課題を確認する。

- ・水書板やホワイトボードの空いている部分に、本時に習った漢字の中で覚えている漢字を自由に書かせる。丸を付けたり、間違いがあれば一緒に訂正したりして即時評価する。書くことができた漢字を称賛するとともに、間違った漢字については、次回も引き続き練習することを確認する。

**[児童の様子、成果]**

- ★ ホワイトボードや水書板に書いた経験がほとんどなかったため、高い興味関心を示していた。
- ★ 大きく書くことで、手本の細部まで見て正確に書くことができた。(図3)
- ★ 仲の良い友達の名前を漢字で書くことができ、喜んでいました。

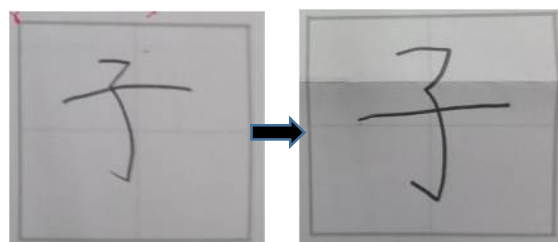


図3

小学校	自分に合った学び方を一緒に見つけ、意欲的に取り組ませる指導
<p>★対象児童 (3) 年 対象障害種 (ADHD・LD の疑い)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のある情報はしっかりと聞き、物語の読み聞かせでは、想像力豊かに気持ちを話せる。</li> <li>・身の周りの片付けや物の管理が苦手で、学習にも支障が出ることがある。</li> <li>・板書を写す等単純作業を、素早く正確に行うことが苦手で、学習意欲が低下しがちである。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集中時間を伸ばしていくことができる。【自立活動 2 心理的な安定一 (3)】</li> <li>・自分に合った学習方法を見つけ、使っていこうとする。【自立活動 4 環境の把握一 (2)】</li> </ul> <p>★参考資料、有効だった教具・教材 (お役立ちグッズ) 等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ビジョントレーニング・ワークブック」 (北出勝也、ナツメ社)</li> <li>・「聞き取りワークシート 2 大事なところを聞きとろう編」 (NPO フトゥーロLD 発達相談センターかながわ、かもがわ出版)</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p><b>[学習内容と指導方法]</b></p> <p>① <b>学習用具の点検</b>      学習用具が揃わず、学習に参加しようとしめないこともあるため、筆箱の中にシールや写真を貼り付けたり、大切な手紙を入れる場所を決めたりした。授業の最初には、学習用具がそろっているか、鉛筆が削れているかを一緒に確認するようにしている。教室には、用具の予備をできるだけ準備するようにしている。</p> <p>② <b>集中して取り組む活動</b>      眼のストレッチや視線の運動でウォーミングアップをしてから、認知課題に合った点つなぎ・なかま探し・数字探し・聞き取りワークなどのワークシートを何枚か準備し、選択するようにしている。処理速度をあげる課題では、タイムを記録し、記録の伸びを実感できるようにした。点つなぎでは、斜線をなかなか正確に繋ぐことができなかつたので、赤ペンで点に印をつけて練習したりし、頑張っていることを認めたりしている。少しずつだが、意識しながら斜線を繋ごうとするようになってきている。</p> <p>③ <b>自分に合った学習手段や方法を見つけ、学習に参加する意欲を高める。</b>  <u>文字入力のために</u>タブレットで音声入力することも試したが、周囲の目が気になり、フィリック入力または、ひらがなのキーパッドを表示しての入力を勧めた。現在は、このどちらかの方法を選んで作文することが増えてきた。  <u>学習手段の選択</u>ノートだけでなくタブレット・ワークシートなども選択させる。今は、ワークシートを選ぶことが多い。自分で選択すると頑張っているように見えることができる。  <u>板書を写す</u>写真に撮り、手元に置いて写すことが増えた。  <u>漢字の練習</u>マス目もできるだけ拡大したものを準備したが、少しずつマス目は意識するようになってきた。丁寧に書こうとしている時は、褒めて認めている。  <u>計算問題</u>の式なども記入してあると意欲が湧き、頑張れるようになった。  <u>100 マス計算</u>は、マス目を縦横に見ながら描くことが難しく、普通の式が並んでいる計算の問題にするようにした。  <u>文章問題</u>いくつかに分けて解き方の方法をいくつか提案することで、それを使って自分で解決しようと意欲を高めることに繋がった。  <u>国語テストの支援</u>長文読み取りの問題は、読み上げをすることで、意欲的に回答している。</p> <p>④ <b>在籍学級との連携</b>      在籍学級の担任と連携を密にし、通級指導教室で試してみようと思った支援は連絡を取り合い、在籍学級や家庭にフィードバックするよう努めている。</p> <p><b>[児童の様子、成果]</b></p> <p>★書くことの負担を軽くする支援をできるだけ提案していき、本人が納得して使うことで、これならできそうだと、少しずつ学習に意欲をもつようになってきた。漢字の学習について支援の時間を確保していきたい。</p> <p>★ビジョントレーニングを少しずつ続けることで、眼の動きが改善しつつあるようだ。集中できる時間も少しずつ伸びている。長い目でみていきたい。</p>	

小学校	友達と適切に関わりながら、心穏やかに学校生活を送るための指導
<p>★対象児童 (3)年 対象障害種 (自閉症スペクトラム障害)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• こだわりが強く、人の話を受け入れることが難しい。(問題行動を注意されても、断続的にくり返すことが多い。)自分の思いにそぐわないと、大きな声を出すことがある。</li> <li>• 場の空気や人の気持ちを読み取ることが難しく、友達とトラブルになることがある。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 好きなことや得意なことを伸ばして自己肯定感を高めるとともに、情緒の安定を図りながら学校生活に前向きに取り組めるようにする。</li> <li>• 集団生活を送る上で守るべきルールやマナーについて理解し、友達と円滑にコミュニケーションを図りながら、周りに合わせた適切な行動ができるようにする。</li> </ul> <p>【自立活動3人間関係の形成一(2)】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「1日5分!教室で使えるコグトレ 困っている子を支援する認知トレーニング」(宮口幸治、東洋館出版社)</li> <li>• 「聞きとりワークシート」(LD発達相談センターかながわ、かもがわ出版)</li> <li>• (LD発達相談センターかながわ、かもがわ出版)・「きくきくドリル」(村上裕成、文英堂)</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p><b>【学習内容と指導方法】</b></p> <p>①コグトレ(見る力・集中力・さがし算)</p> <p>課題への意識を高めたり、集中力をつけたりしていくために、決められたルールのもと、条件に合ったものを探し出していく。内容や難易度を適切に設定することで、課題解決の達成感を得ながら意欲を高く維持できるようにする。</p> <p>②聞き取り学習(聞く聴くドリル・聞きとりワークシート)</p> <p>音声のみの情報をしっかりと聞き取って適切な答えを考える。集中して課題に向き合う力や必要な情報を正しく聞き取る力などを養い、課題を適切に解決できるようにする。</p> <p>③ソーシャルスキルトレーニング</p> <p>本来やるべきことと自分の思いがずれているときの行動について考え、どうすることが正しいのかを確認する。ワークシートの上では理解し適切な選択ができることも、現実の場面では周りの状況に関わらず自分の思いだけで行動することがあるため、具体的場面に合わせた指導を継続していくことで意識を高めていく。</p> <p><b>【児童の様子、成果】</b></p> <p>★ 児童の特性や好みを考慮した課題を設定したことで、意欲的に取り組むとともに、少しずつ難易度が上がる課題を解決することにより自己肯定感を高めていくことができた。継続して取り組んでいくことで、落ち着いた気持ちで過ごせるようにしたい。</p> <p>★ 自分自身の行動について、少しずつ客観的に見るできるようになってきていて、課題を改善していこうという気持ちももつことができています。しかし、実際の集団生活の場では、気持ちがコントロールできずに適切でない行動をとってしまうことが未だ多く見られる。周りの状況を考えて、自分自身の行動を律するための手立てを身に付けることができるようにしていきたい。</p>	



小学校	自分のしたいことを優先させ、行動の切り替えが難しい児童への指導								
<p>★対象児童 (4)年 対象障害種 (ADHD LD)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時と場、相手の気持ちを考えた言動をすることが苦手であるが、自分の興味のある活動に意欲的に取り組むことができる。また、自分の気持ちを素直に話することができる。</li> <li>・文字をマスや行の中に整えて書いたり、正しい筆順で漢字を書いたりすることが苦手である。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のしたいことを続けたくても、時間が来たら気持ちを切り替えて、次の活動に取りかかろうという気持ちをもつことができる。</li> </ul> <p>【自立活動3人間関係の形成—(1)他者とのかかわりの基礎(3)自己の理解と行動の調整】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の生活をもとにした自作資料</li> <li>・「あたまと心で考えよう SST ワークシート社会的行動編」 (NPO フトゥーロ LD 発達相談センター かながわ、かがわ出版)</li> </ul>									
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等									
<p><b>[学習内容と指導方法]</b></p> <p>○ SST「次の活動の時間が来たら」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の生活場面で実際にあったこと(清掃の時間になり、声をかけたが、虫取りを続けていた)をもとに、資料を作成した。</li> </ul> <p>(1) 場面絵と教師の読み聞かせから、問題場面について知る。</p> <p>(2) なぜ遊びを止められないのか考える。</p> <p>(3) A 児が同じ清掃当番の友達、教師が遊びを止めない児童役でロールプレイをする。</p> <p>(4) 友達の立場になると、どんな気持ちかを考える。</p> <p>(5) 自分のしたいことを続けるとどうなるかを考える。</p> <p>(6) 活動を通して大切だと思ったことを書く。</p> <p>☞ 自分のしたいことを止めて、次の活動に取りかかろうという気持ちについて書くことができたか。 【思・判・表】(ワークシート)</p> <p><b>[児童の様子、成果]</b></p> <p>★始めは「しかられる」「ほめられる」と言った反応だったが、話し合う中で「(そうじをして)きれいになると気持ちがいい」と、行動そのものの意味について考えるようになった。また、大切なこととして「遊びの時間は遊びの時間、そうじの時間はそうじの時間」と、A 児自身の表現で、次の行動に切り替える大切さを発表することができた。</p> <p>★A 児の生活場面をもとにした内容だったが、自分のこととしては気付いていなかった。今後も清掃、さらに他の生活場面でも学習したことが生かされるように、日常的な指導が大切である。</p>	<div data-bbox="774 772 1428 1052" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>一郎さんは虫取りが大好きです。今日も昼休みに学級園でバッタやコオロギをつかまえようと走り回っていました。やがて、そうじが始まる放送がありました。でも、虫取りに夢中の一郎さんは、放送を気にせず虫取りを続けていました。学級園へ来て草めきを始めたよしおさんが、「一郎さん、そうじの時間だよ！」と呼びましたが、知らん顔です。</p> </div> <p style="text-align: center;">問題場面</p> <div data-bbox="774 1108 1428 1366" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>なぜそうじをするの？ 庭がきれいになる。 先生にほめられる。 気持ちがいい。 大切なことは？ 遊びの時間は遊びの時間。 そうじの時間はそうじの時間。 時間を守る。</p> <p>楽しいなあ、そうじができて関係ないよ。 そうじしてほしくないなあ、先生にしかられるよ。</p> </div> <p style="text-align: center;">板書</p> <div data-bbox="774 1411 1428 1848" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">次の時間が来たら…</td> <td style="width: 20%;">名前</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">あそびのじかんはあそびのじかん</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">そうじのじかんはそうじのじかん</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">じかんをまもる</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">自分の言葉でしかり表すことができました！</p> </div> <p style="text-align: center;">ふり返り</p>	次の時間が来たら…	名前	あそびのじかんはあそびのじかん		そうじのじかんはそうじのじかん		じかんをまもる	
次の時間が来たら…	名前								
あそびのじかんはあそびのじかん									
そうじのじかんはそうじのじかん									
じかんをまもる									

小学校	わり算の筆算の手順を示し、ゲーム的要素を取り入れて習熟を図る指導
<p>★対象児童 (4) 年 対象障害種 ( 注意欠陥多動性障害 )</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• わり算の筆算に苦手意識をもち、手順がなかなか覚えられない。</li> <li>• 自分の感情や意見を言葉で上手に相手に伝えることができず、友達との関わりがもちにくい。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ゲーム的要素を取り入れ、わり算の筆算に意欲的に取り組むことができる。</li> <li>• 自分の思いや考えを相手に伝えることができる。【自立活動6コミュニケーションー (2)】</li> </ul> <p>★参考資料、有効だった教具・教材 (お役立ちグッズ) 等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「1日5分教室で使えるコグトレ」(宮口幸治、東洋館出版社)・きくきくドリル (村上裕成、文英堂)</li> <li>• 「授業でつかえる算数あそびベスト50」(相原昭他、民衆社)</li> <li>• 「わたしはなあに?カードゲーム」(学研ステイフル)</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>① 認知トレーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 毎時間の始めの5分間で、「きくきくドリル」「間違い探し」「仲間を探せ」等のトレーニングをし、見る力や聞く力、集中力を伸ばす。</li> </ul> <p>② わり算の筆算の習熟のために…「わり算の筆算すごろく」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• さいころを振って、わり算の筆算をし、余りの数だけ進む、すごろくをする。</li> <li>• わり算の筆算をする時には、「たてて」「かけて」「ひいて」「おろす」という、わり算の筆算の手順を手元に置いて、確認しながら行う。</li> <li>• 手順ガイドのついたプリントや解き方の練習が入ったプリントを使うことで、わり算の筆算方法に慣れるようにする。</li> <li>• さいころの出た目でわることを繰り返し、わり算の筆算の習熟を図る。</li> </ul> <p>③ 友達との関わりを深めるために…「わたしは何でしょう?」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• じゃんけんをして勝った人は、読み札から1枚引き、周りから見えないように持つ。</li> <li>• 他の人は、読み札を予想しながら交代で質問をする。</li> <li>• 読み札を持った人は、みんなからの質問に「はい」か「いいえ」で答える。</li> <li>• 他の人は、カードが何か分かったら取り札を取り、正解したらその札をもらえる。</li> </ul> <p>[児童の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 認知トレーニングのワークシートをファイルに綴じてご褒美シールを貼ったり、前回とタイムを比べたりすることでスキルアップできていることを実感することができた。</li> <li>★ わり算の筆算の手順を用いることにより、正確に計算できるようになった。また、わり算の筆算すごろくをゲーム感覚で行うことにより、筆算に対して抵抗が少なくなり、意欲的に取り組むことができた。</li> <li>★ 「わたしは何でしょう?」を通して、友達に質問したり、友達からの質問に答えたりする等、楽しみながら活動することで、友達とのコミュニケーションを図ることができた。</li> </ul>	



小学校	話を聞き、正しく理解し、言葉で表現するための指導
<p>★対象児童（４）年 対象障害種（注意欠陥多動性障害）</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周りが気になって、集中力が続きにくい。</li> <li>・コミュニケーションが取りにくく、友だちとのやりとりがうまくできない。</li> <li>・言葉の理解力や知識の習得、言葉を使って表現したり、推理したりすることが難しい。</li> <li>・質問に対して、関係ないことについて話すなど、会話のやり取りが成立しない時がある。</li> </ul> <p>また、計算問題等のパターン化された作業についてはその場ではできる事もあるが、時間が経つと忘れてしまうことが多い。</p> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話を最後まで聞き、聞かれたことを正しく理解し、言葉で表現することができる。</li> <li>・視覚・聴覚・空間認知・ワーキングメモリを高める集中トレーニングに意欲的に取り組むことができる。SSTで必要なスキルを身に付ける。</li> </ul> <p>【自立活動6コミュニケーションー(5) 2心理的な安定ー(3)】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材（お役立ちグッズ）等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「1 分間フラッシュカード」シリーズ</li> </ul> <p>知覚トレーニングフラッシュカード「きえたのは なあに？」 （東京教育技術研究所 協力：医学博士・どんぐり発達クリニック院長 宮尾益知）</p>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>○集中トレーニングを行い、見たり聞いたりする力を鍛える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よく見るトレーニング 絵の中から、指定された絵を見つけていく。かかった時間を競うのではなく、集中することが大切であることを確認しながら、集中して取り組むことができている。</li> <li>・よく聞くトレーニング 問題文を聞き、その内容についての質問に応じる。きちんと聞き取れなかった際は、「もう一度言って下さい。」と問い直しができるようになってきている。</li> <li>・よく覚えるトレーニング 視知覚トレーニングフラッシュカード「きえたのは なあに？」に出てくる動物を覚えて、消えた動物を当てることができるようになってきている。</li> </ul> <p>○絵本「ルラルさんのだいくしごと」（いとうひろし、ポプラ社）を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせをし、最後までしっかり話を聞くことができる。</li> <li>・話の内容について、5W1Hを含めて読み取り、黒板にまとめていく。</li> <li>・ワークシートの問題を読んで応じる。</li> </ul> <p>[児童の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 集中トレーニングを繰り返すことで、しっかり見ること、しっかり聞くことができるようになってきている。しかし、自分が難しいと感じると、すぐに集中力が切れてしまい、集中できなくなることもある。</li> <li>★ 聞いて覚えることを目標に、フラッシュカードを使った。数が増えると、どうしても覚えにくいところもあるが、覚えようと努力する姿が見られるようになった。</li> <li>★ 国語や算数での問題の読み取りの力を付けるために、簡単な絵本を使い、内容を一緒に覚えたり、理解したりできるようにしていった。黒板にまとめていくことで、ワークシートの問題にも正しく答えることができた。今後実践に活かすために、聞き取りや問題に具体的に組みませ、問題の意図が少しでも理解できるようにしていきたい。</li> <li>★ 保護者や担任と連携し、通級指導教室で学習したことを、各教室や家庭で活かし、前向きに考えようとしている。</li> </ul>	



小学校	運動感覚の発達を促し、人とのコミュニケーションを円滑に行うための指導
<p>★対象児童（４）年 対象障害種（ASD ADHD）</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 つのことに集中すると、周りが見えなくなる。</li> <li>・ 一方的に自分の話を続けてしまう。</li> <li>・ 身の周りの整理整頓が苦手である。</li> <li>・ 眼球をスムーズに動かすことやボール運動が苦手である。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人との適切なコミュニケーションの取り方を知る。</li> <li>・ 体幹を鍛え、スムーズな眼球運動を行うことができる。</li> </ul> <p>【自立活動 6 コミュニケーションー（5）、3 人間関係の形成ー（2）、4 環境の把握ー（1）、5 身体の動きー（3）】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材（お役立ちグッズ）等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「1日5分！教室で使えるコグトレ 困っている子を支援する認知トレーニング」 （宮口幸治、東洋館出版社）</li> <li>・ 「SSTワークシート（自己認知コミュニケーションスキル編）」 （NPO フトゥーロ LD 発達相談センターかながわ、かもがわ出版）</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p><b>[学習内容と指導方法]</b></p> <p>1 おはなし（会話のキャッチボール）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の好きなことをテーマに、会話の内容を考えられるようにする。</li> <li>・ 自分と相手の話す内容を考えることで、一方的に話していないかを確認できるようにする。</li> </ul> <p>2 からだトレーニング</p> <p>（1） タンDEM歩行、リズムジャンプ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5mのテープの上を前歩きと後ろ歩きでタンDEM歩行する。</li> <li>・ テープを踏まないように、両足を揃えてサイドジャンプしながら前に進む運動を行う。</li> </ul> <p>（2） 風船バレー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 風船をよく見て打てるようにする。数を数えながら行うことで、目標をもって楽しく取り組めるようにする。</li> </ul> <p>3 ビジョントレーニング</p> <p>（1） 眼球運動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 顔を動かさずに眼球だけをゆっくり動かし、ペンの先を追う眼球運動を行う。</li> </ul> <p>（2） コグトレ（数字はどこ？、重ね図形）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知機能を強化し、見る力を高めるために、コグトレに取り組む。</li> </ul> <p>4 SST（じょうだんかな本当かな？・サインの意味・優先順位のつけかた・空気を読む） 担任や保護者と連携し、児童の実態に合ったものを用意する。</p> <p><b>[児童の様子、成果]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 会話のキャッチボールを何回か行くと、「少ししゃべり過ぎてるな。」と自分の会話を振り返ることができるようになってきた。</li> <li>★ ビジョントレーニングでは、ペンの先を見る眼球トレーニングは苦手なので回数を減らした。代替として風船バレーを取り入れることで、楽しく取り組むことができるようになった。</li> <li>★ ワークシートを使ったSSTで日々の様子を振り返り、その様子を連絡帳で伝えることで、担任や保護者と連携を図り、より児童の特性にあった課題を考えることができた。</li> </ul>	



★対象児童（4）年 対象障害種（LD・ADHD）

★対象児童の特徴

- ・集団で行動することを好み、気持ちや行動の切り替えができるようになってきた。
- ・語彙が少ないため、自分の思いをうまく伝えることが難しい。相手の気持ちや周りの状況を察することなく行動することがある。

★目標

- ・人と関わることの楽しさを感じながら、意欲的に活動に参加し、習得した人と関わるスキルを日常生活の中で使おうとする。 【自立活動6コミュニケーションー（5）】

★参考資料、有効だった教具・教材（お役立ちグッズ）等

- ・「10歳のミッション キミを一生ささえる31の行動」（齋藤孝、幻冬舎）
- ・「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる 小学校」（國分康孝、図書文化）

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

**[学習内容と指導方法]**

①心に届くあいさつの仕方を身に付ける。

- ・NHK for School「でーきた」（あいさつ）を視聴し、あいさつの働きや重要性を考える。
- ・時や相手に合わせたあいさつの言葉やあいさつの仕方を確認し、やってみる。



②上手な話の聴き方のポイントを意識して、相手の話を聴いて質問する。

- ・話を聴くあいづちにはどんな言い方があるかを知り、ペアで「そうだねゲーム」をする。
- ・T1とT2でよくない話の聴き方の場面と話がはずんでいる会話の場面を演じて見せ、会話はずませるポイントを考える。
- ・「見る、待つ、うなずく・あいづち」のポイントに気を付けて、質問する人、答える人、観察する人と役割を決めて、「インタビューゲーム」を行う。
- ・活動の様子を撮影し、動画を視聴しながら自己評価や他者評価を行う。

③友達のいいところを見つけ、あたたかい言葉かけをする。

- ・「いいところさがしカード」に友達のいい所を書き、それをもとに「その人の様子＋感情語」であたたかい言葉を考え、実際に言ってみる。

※<事前>身に付けてほしいルールやマナーについて、本人、学級担任、保護者にワークシート「10歳までに身に付けたい大切なこと（35項目）」を使ってアンケート調査を行い、対象児童に特に必要と思われるルールとマナーを選定する。

<事後>学習したことを「今週のミッション」として、相手や場所に応じてできたか「ふりかえり表」を使って1週間振り返り、行動の定着化を図る。

ふりかえり表 今週のミッション 相手のいいところを見つけよう！

◎ 見つけてほめた ○ いいところを見つけた ◯ 空欄 できなかった

	6.30	7.1	7.2	7.3	7.4	7.5	7.6
まなびで	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
教室で	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
地域で	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

<ふりかえり>  
 楽しかったです。  
 ◎ いいところがたくさん見つかりました。

**[児童の様子、成果]**

★ゲーム性のある活動を取り入れたことで、児童は意欲的に活動し、仲間と楽しい雰囲気の中でコミュニケーションの基本を習得することができた。

★「今週のミッション」として学習したことを1週間やってみることで、これからも学校や家庭で習ったことをやってみようという意欲を高めることができた。

小学校	自分の特性を知り、自分を落ち着かせるための指導
<p>★対象児童 (4)年 対象障害種 (ADHD)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 間違いを訂正することに抵抗感が強く、思うように直せないと感情的になり、乱暴な言葉づかいをしたり、自分の持ち物や自分自身に八つ当たりをしたりする。</li> <li>• 興味のあることには詳しく、分かりやすく説明できるので、友だちに教えるのが上手。</li> </ul> <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の間違いを受け入れ、訂正することへの抵抗感を減らし、乱暴な言葉づかいをしたり八つ当たりをしたりせずに課題をやり遂げることができるようにする。</li> </ul> <p>【自立活動1 健康の保持一(4)、2 心理的な安定一(1)】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「攻略!きみのストレスを発見せよ!~ゲームで身につくストレスマネジメント~」</li> <li>• 「イラスト版子どものアンガーマネジメント」 ともに(合同出版)</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p><b>[学習内容と指導方法]</b></p> <p>①ストレスマネジメント</p> <p>○自分のストレスに気づき、ストレスを感じている自分を助けるスキルを身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分のストレス発見ゲーム …自分の「ストレスのもと」を見つける。</li> <li>• 自分のストレス反応発見ゲーム …自分のストレスの感じ方を見直す。</li> <li>• 自分のコーピング発見ゲーム …自分のストレスを減らす方法を見つける。</li> <li>• ひとりでストレスマネジメント …学校生活で起こった困った出来事をふり返り分析する。⇒</li> </ul> <p>②アンガーマネジメント</p> <p>○自分の怒りを知り、上手にコントロールするスキルを身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「怒り」のしくみを理解…「怒り」をコントロールするのは自分だと知る。</li> <li>• 衝動的に怒らない方法を理解…6秒ルール、怒りの温度計等</li> <li>• 考え方を変える…「~べき」という強い思い込みを変える。</li> <li>• 上手な怒り方をマスターする…「人を傷つけない」「自分を傷つけない」「物にあたらない」</li> <li>• 怒りの後の行動を自分で決める…変えられることと変えられないことを見極める。自分にとって、大切か大切でないかを判断する。</li> </ul> <p><b>[児童の様子、成果]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 自分が不適切な行動をとった場面をふり返り、何が嫌だったのか、どのような言動をとってしまったのか、落ち着くためにどのような行動をしたのか、どうすればさらによかったのかを、冷静に分析できるようになってきた。</li> <li>★ 自分の怒りを落ち着かせるために「怒りの温度計」が有効であることに気づき、在籍学級で「怒りの温度計」の立体バージョンを自作して、自分が利用するだけでなく、クラスの友だちにも紹介し、使い方を説明して友だちにも利用してもらっている。</li> </ul>	



小学校	最後まで話を聞き、大事なところを聞き取れるようにするための指導
-----	---------------------------------

★対象児童 (4)年 対象障害種(言語発達遅滞)

★対象児童の特徴

- ・最後まで集中して話を聞くことが難しく、一斉指導では大事な内容を聞き逃してしまうことが多い。そのため、取りかかるのに時間がかかってしまう場合がある。

★目標

- ・話を聞くときのポイントを知り最後まで話を聞き大事なことを聞き取ることができる。
- ・自分を振り返り、学校生活の中でも実践しようとする気持ちをもつことができる。

【自立活動4環境の把握ー(1), 6コミュニケーションー(2)】

★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等

- ・「ワーキングメモリーとコミュニケーションの基礎を育てる聞きとりワークシート②大事なところを聞きとろう編」  
(編著:LD発達相談センターかながわ、株式会社かもがわ出版)



学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

**【学習内容と指導方法】**

参考資料をもとに自作した 聞き取りクイズ

①日常生活の具体的な場面を取り上げ、早とちりをしたり聞き間違えたりして困った経験はないかを一緒に考えながら、自分の生活を振り返る。

②大事なことを聞き取るためのポイントを確認する。

- ・「最後まで」話を聞くこと。
- ・「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」に気を付けて聞くこと。  
※大事なことを正しく聞き取ることができると、自分から行動できることが増え、学校生活がより楽しくなることを押さえておく。

③聞き取りクイズをする。(2問)

- ・指導者が読み上げる短い話を聞き、質問の答えを選択肢から選んで丸をつける。
- ・話の内容は、身近な話題(校外学習や運動会など)を取り上げ実際に起こりうる場面を想定して自作したものを使用する。
- ・何に気を付けて話を聞けばよいか分かるように、質問内容を知らせておく。意味が分からない言葉は、説明しておく。
- ・1回で聞き取れなかった場合は、もう一度ゆっくり読んで自分で選択できるように、「自分でできた」ことを実感できるようにする。

④聞き取りチェックシートで振り返る。

- ・「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」に気を付けて聞くことができたか。「最後まで」話を聞くことができたかについて振り返る。学校生活の中でもポイントに気を付けて最後まで話を聞こうとする気持ちを高めるようにしたい。

**【児童の様子、成果】**

★身近な話題であることから、興味をもってクイズに取り組んでいた。最後まで集中して話を聞き、正しい答えを選択肢から選ぶことができた。

★集団の中でも、集中して最後まで話を聞こうとするようになってきている。大事なところを逃さずに聞くことができるように、継続して取り組んでいく必要がある。

読み上げ文②

運動会のときに、4年生全員で行う、ダンスについて説明します。  
1組と2組、それぞれ3チームずつ作ります。  
2組は、入場門から入って、北側にそれぞれ円を作ります。  
それでは、今から練習します。今の時刻は、11時です。  
トイレを済ませて、10分後に、入場門の前に集合してください。  
集合するときは、小さい順にならんで待ちましょう。

聞き取りクイズNo.2-②

しつもん① 2組は なんチーム 作りますか?

①2チーム	②3チーム	③4チーム	④6チーム
-------	-------	-------	-------

しつもん② 2組は どこに 円を作りますか?

①南がわ	②真ん中	③北がわ
------	------	------

しつもん③ 集合時間は なん時ですか?

①10時10分	②10時50分	③11時	④11時10分
---------	---------	------	---------

しつもん④ どこに 集合しますか?

①入場門の前	②入場門の後ろ	③南がわ	④北がわ
--------	---------	------	------

★対象児童 (4)年 対象障害種 (ADHD)

★対象児童の特徴

- ・活動的な遊びを好み、友達と一緒に遊ぶことが多い。
- ・根気の必要な課題や苦手なことがあると大声を出したり物にあたりたりする。
- ・集中が続きなかつたり友達に反応したりして離席することがある。また、姿勢保持もできにくい。

★目標

- ・体をコントロールして集中する時間を伸ばすことができる。
- ・自分の思いや考えを伝える話型を増やすことができる。
- ・イライラした時や困った時に言葉で伝えようという意識を高める。

【自立活動2心理的安定- (3)、6コミュニケーション- (2)】

★有効だった教具・教材 (お役立ちグッズ) 等

- ・「Gボール検定」(日本バランスボール協会) ・「気持ちパレット」(大場美鈴、楽々かあさん)

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容や指導方法]

1 心も体も落ち着くために

① 環境調整

複数で学習する時に落ち着きやすいように縦2m×横1mの衝立で仕切りを作る。

② 気持ちをコントロールするための合言葉

「切りかえる」「集中する」「ちっちゃいがまん」「言葉で伝えよう」「アドバイスをきく」等の行動を調整する言葉を黒板に掲示しておく。

→できた時に花丸カードや言葉かけを行い、良い行動を価値付ける。

③ バランスボールを使って感覚統合

バランスボールでバウンドしたりブリッジをしたり基本的な動きを練習する。静止する運動が多い「Gボール検定」の初級編を使って、児童がしたい課題を選んで練習する。

④ 深呼吸でリラックス

バランスボールでブリッジをしたまま腹式呼吸で10秒の深い呼吸を行い、背筋や背骨を緩める。



【バランスボール 初級編】

2 自分の思いや考えを伝えられるようにするために

① 丁寧な言葉遣いを身に付ける。

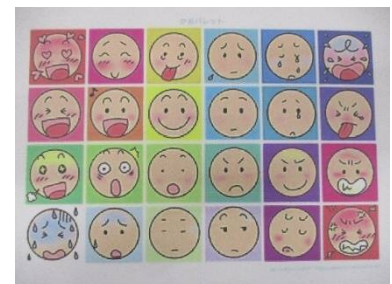
- ・名前を呼ばれたら「はい」と返事をする。
- ・丁寧な言葉「～です。」「～ですか。」で伝える。
- 黒板に話型を示し、できていれば即時に花丸カードで評価する。

② 依頼するための話型の練習をする。

- ・文房具や用具を借りる時の言葉 (話せるまで繰り返し練習する。)
- ・職員室の入り方 (実際に職員室に行く。)
- ・学習中、分からない時や困った時の伝え方 (伝え方の話型を示す。)

③ 自分の思いや気持ちの状態を伝える。

- ・気持ちが高ぶったり怒ったりしている時に「気持ちパレット」のイラストを使って指差して伝える。そして「どうしてそう思いますか?」「理由は?」の言葉かけに答えられるようにする。



【気持ちパレット】

[児童の様子、成果]

- ★ 衝動的に行動することはあるが、衝立の仕切りがなくても落ち着いて話せるようになった。
- ★ 初めてバランスボールに座った時はボールが何度も跳ね返っていた。バランスボールの課題に意欲的に取り組むうちに、徐々に安定して座れるようになった。バランスボールに座ると「頭の中が覚める。」と話していた。
- ★ 活動にすぐに取り組めない時に、クールダウンしたいことを自分から伝えることが増えた。バランスボールを使って気持ちを切り替えると、次の活動に集中して取り組めるようになっている。

小学校	感情のコントロールができるようになるための指導
<p>★対象児童 (4)年 対象障害種 (ADHD)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <p>①自分の思い通りに進まない場面で泣く、怒る、その場から逃げることがあり、同級生とのトラブルが起きやすい。</p> <p>②集中できる時間が短く、途中で書くことや聞くことをやめ、自分のしたいことをすることがある。(苦手なことをやり続けるとイライラが募る。)</p> <p>★目標</p> <p>①自分の感情を言語理解し、場面に応じた適切な言動を選べるコミュニケーションスキルを身につける。</p> <p>②場面の状況に応じて、何をすればよいかを考え、よりよい選択をできるようにする。 【自立活動3.人間関係の形成—(2)、2.心理的な安定—(3)】</p> <p>★有効だった教具・教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなの怒りスイッチをさがせ！」 (日本アンガーマネジメント協会)</li> <li>・「どこでもピンポン」卓上卓球セット</li> </ul>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p><b>[学習内容と指導方法]</b></p> <p>① 自己の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中や休み時間に起きやすい場面を想定して、自己の怒りと向き合う時間をとる。</li> <li>・自己の状況を、気持ちを表す言葉で説明できるようにする。</li> <li>・通級指導中は冷静を保てていても、実生活ではとてもキレやすく攻撃性が高いという自分の状態を知り、具体的にどのように対応すると良いか、役割演技をしながら練習をする。</li> </ul> <p>② ソーシャルゲーム(失敗の挽回の仕方の練習、成功体験の積み重ね)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1対1、2対2などの対戦型、参加者全員でクリアを目指す協力型など、メンバーによって活動内容を変えている。</li> <li>・「ザコい」、「ウザい」、「へたくそ」などの暴言が出たときは、一度ゲームを止め、「ドンマイ」、「次、次」、「惜しかった」などの別の言葉に言い換えてから再スタートする。</li> <li>・相手をいたわる言葉、チームメイトを励ます言葉が使えたときは、「それはお互いに気持ちいいね。」と褒める。</li> </ul>	
<p><b>[児童の様子、成果]</b></p> <p>① 自分の怒りレベルの上がり具合を知り、どのような場面でどのように感じ、どのように行動するかを想定することで、実生活での怒り(イライラ・もやもや)の場面に対応できるスキルを徐々に身につけている。</p> <p>② 「勝ちたい」とむきになると暴言が出るので、遊びの中のマナー、言葉遣いをその都度確認することで、だんだん冷静に遊べるようになってきた。勝ち負けで相手を攻撃するのではなく、「楽しかった。またやりたいね。」と笑顔で終われることも増えてきた。</p>	